令和８年度第２回大分県総合教育会議　議事要旨

【日程】

日 時　令和８年８月７日（金）

開会 16 時 00 分　閉会　17 時 00 分

場 所　県庁本館４階　第一応接室

【出席者】

大分県知事	佐 藤 樹 一 郎
大分県教育長	山 田 雅 文
大分県教育委員	高 橋 幹 雄
大分県教育委員	鈴 木　　恵
大分県教育委員	岩 武 茂 代
大分県教育委員	岡 田 豊 弘
大分県教育委員	藤 田　　敦

【協議事項】

高校教育改革について

【発言要旨】

- トレンドの変化に合わせて、インターンシップや就職の制度、公立高校のアルバイト禁止等、見直していくことが必要。
- 高校教育においても、ＡＩやデータを活用して新たな価値を創造できる人材の育成が重要。
- 実習等の空調設備や女子生徒用のトイレや更衣室不足など施設面の課題もある。先端的な実習設備の整備だけでなく、安心して学べる教育環境の整備についても進めていくことが必要。

【各委員の主な発言】

（知事）

- 最先端の技術、ＡＩのようなものを発想するような能力をどう身に付けていくか、そのもとになる根のところは、高校教育から始まっているのではないか。

（教育長）

- 日進月歩する技術に高校の先生が十分にキャッチアップするのは難しいところがあり、企業の現役の方等に高校で教えてもらうようなことを進めていく必要がある。特別免許状の制度を活用した人材バンクのようなもので派遣できる方を提示してもらえるとよい。
- こどもの希望する進路が何よりも大事ではあるが、加えて、大分県の将来も大事。うまくバランスをとって指導していくことが必要。

（高橋委員）

- インターンシップが短すぎて、企業の仕事がわかりづらい。もう少しインターンシップが就職に繋がるよう、企業ともう少し密に話をして、時期や内容等を考えていただきたい。

（鈴木委員）

- 労働環境の改善や賃上げの支援を知事部局で行い、教育委員会はどちらかというと、高度専門職人材を育てていかないといけない。資料には出てきていないが、計画や目標など、リードしてもらわないと困るため、公務員も必要。

（岩武委員）

- 単なる今の働き方よりも自分たちが改革していくという見方に立てば、こどもたちに夢が生じるのではないか。今の高校は教育の在り方を変えてきているとは思うが、もっと新しい価値の創造等が可能になるような教育に変換していくべき。

（岡田委員）

- 現在、探究というものが求められているが、自治体の政策に直結し、観光政策等や高齢者支援等、高校生の提案が県の政策に採用されることが当たり前の状態になると言われている。

（藤田委員）

- 現場の仕事も変わってきている。普通科の学生たちに、いかに現場の仕事に興味関心を持たせるかということも大事。
- 高校生でも産業界全体の人材不足等を正面から受け止める力がある。いずれは社会を支えていく人材となっていくという観点から、社会の実態をしっかり伝えていくことが大事。